



2025年度日系次世代育成研修  
高校生招へいプログラム

---

# 実施報告書

独立行政法人国際協力機構（JICA）  
特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金

# 目次

---

1. 日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）概要\_\_\_\_\_P.1
2. 研修生リスト\_\_\_\_\_P.6
3. プログラム日程\_\_\_\_\_P.7
4. プログラムの内容\_\_\_\_\_P.8
5. 研修生の感想\_\_\_\_\_P.19
6. 総評\_\_\_\_\_P.28
7. 添付資料（募集要項）\_\_\_\_\_P.29

# 1. 日系社会次世代育成研修 (高校生招へいプログラム) 概要

## ①研修の目的

中南米の日系社会は世代交代が進み2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通し、日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人材を育成することを目的としています。

本研修では、将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質のある日系次世代の高校生が、日本人の海外移住の歴史に関する学習・本邦大学での研修・その他の各種研修を通じて自分たちのルーツと日本に対する理解を深め、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを強化することを目的としています。

## ②研修期間

来日：2026年1月13日（火）

離日：2026年2月5日（水）

## ③研修生内訳（P6参照）

- ・人数：31名
- ・出身国：ブラジル（14名）、アルゼンチン（3名）、パラグアイ（3名）、ペルー（3名）、ボリビア（3名）、メキシコ（2名）、コロンビア（1名）、ドミニカ共和国（1名）、ウルグアイ（1名）

現地からの引率者 ブラジル（1名）、アルゼンチン（1名）、ボリビア（1名）

## ④各プログラムの目的

### ◆交流活動

---

#### 仲間を知り、つながりを築く

- ・アイスブレイク
- ・国紹介

来日までに準備しておいた自己紹介や自国の紹介をすると同時に、他国の同世代日系人との交流を通じて、自国以外の国にかかる移住の歴史や日系社会に関心を持ち、自分の地域や日系社会への貢献の在り方を考えることを目的とします。

### ◆歴史・ルーツ学習

---

#### 祖先の移住の歴史を学び、ルーツを理解する

- ・海外移住資料館の見学（JICA横浜内）
- ・ワークショップ：ファミリーツリー作成
- ・海外移住に関する史跡巡り（横浜市 馬車道地区～みなとみらい地区）
- ・移住に関する講義（講義：「移民の歴史」）
- ・神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）

日本の戦前・戦後の移住の歴史全体を学ぶことを通し、自分たちの祖先や家族、コミュニティの移住にかかる歴史や社会的文脈について理解を深めることを目的とします。

### ◆アイデンティティ探究

---

#### 歴史や自身の背景を踏まえ、日系人としての可能性や役割について考える

- ・アイデンティティに関する講義（講義：「日系人のアイデンティティ」）
- ・フィールドワーク：日系人の営む農場・多国籍の子どもを受け入れる学校見学

歴史や自身の背景を踏まえ、日系人としての可能性や役割について考えることを目的とします。

## ◆日本文化体験

---

### 日本の伝統文化について学び、日本社会への理解を深める

- ・演習：伝統工芸絵付け体験
- ・演習：茶道体験

日本文化を体験するとともに、古い日本と現代の日本を比較し、自らのルーツである日本への理解を深めることを目的とします。

## ◆学校・生活体験

---

### 日本の学校生活および社会を体験的に学ぶ

- ・高校体験入学
- ・日本人高校生・中学生ホストファミリーへのホームステイ
- ・大学訪問

高校や大学の教育現場や、ホームステイによる生活文化を体験し、日本人の価値観や日常生活を理解することを目的とします。

## ◆宿泊研修

---

### 総合学習を通じた学びの統合

- ・2泊3日研修旅行（広島・神戸・京都）

研修旅行を通して学びを確認し、自らの中で発展させることを目的とします。

## ◆成果整理と発表

---

### 学びの整理と発信力の育成

- ・個別報告書の作成・提出
- ・研修成果のグループ発表
- ・帰国後の目標・行動計画の発表

報告書作成および成果発表を通じて、自らの考えをまとめ、発信する力を養うことを目的とします。

## ⑤各プログラム実施の方法

### 交流活動

---

研修生同士が互いを理解し合うことを目的にゲームを通じた交流活動を実施したあと、来日前に準備したパワーポイントを活用し、自己紹介および自国紹介を行いました。この活動を通じて、自国以外における日系人の歴史や現在の活動を知り、日系社会への関心を互いに高めることができました。

### 歴史・ルーツ学習

---

日本人の海外移住の歴史を学ぶために以下の講義・ワークショップ・フィールドワークを実施しました。

- ・海外移住資料館の見学（JICA横浜内）
- ・ワークショップ：ファミリーツリー作成
- ・海外移住に関する史跡巡り（横浜市 馬車道地区～みなとみらい地区）
- ・移住に関する講義（講義：「移民の歴史」）
- ・神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）

研修生一人ひとりが移住事業にかかる理解を深め、自らのルーツを考える契機とするため、資料館での説明、移住の歴史的背景についての講義での学びと併せて、移住一世から自身までの歩みを可視化するファミリーツリーを作成しました。また、横浜・神戸2都市で、移住に関する施設や周辺に残されている史跡を訪問し、多角的に移住の歴史を知ることが出来る機会としました。

### アイデンティティ探究

---

歴史や自身の背景を踏まえ、日系人としての可能性や役割について考えるため、日系人の営む農場と多国籍の子どもを受け入れる学校を訪問・見学しました。講義では、講師による日系人のアイデンティティに関する講話を聞いた後、事前に取り組んだ自らのアイデンティティについて考えるレポート課題をもとに、考察を深めるグループディスカッションを行いました。

## 日本文化体験

---

茶道体験では、講師から茶道の作法や心得についての講義をうけた上で、お点前の体験をしました。和菓子の試食、自分でお茶を点てるなどの体験、講師による剣道のデモンストレーションなどで、日本文化への理解を深める機会としました。

京都では、町家を改装した会場で、伝統的な型染の手法を使ったハンカチへの絵付け体験をしました。

## 高校体験入学・ホームステイ

---

高校体験入学では、高校の実際の授業に参加し、日本人高校生と一緒に授業を受ける体験をしました。また放課後の課外活動として茶道・華道・日本舞踊などに参加したり、部活動の見学をしたりしました。また日本人中学生・高校生の家に滞在するホームステイでは、日本の家庭生活を体験し、伝統文化とは違った現代の日本文化を知る機会としました。

## 研修旅行

---

二泊三日の研修旅行では、以下の施設を訪問するとともに、異文化体験を実施しました。国内の公共交通を用いた長距離移動の体験、広島・神戸での日本人や移民の歴史に関わる重要な施設の見学に加え、京都では伝統的な日本文化に触れ、多面的に自己のアイデンティティを見つめ直す機会としました。

- ・ 広島平和記念公園、広島平和記念資料館見学（広島県広島市）
- ・ 神戸市立海外移住と文化の交流センター見学（兵庫県神戸市）
- ・ 京都での寺社訪問、伝統文化体験（京都府京都市）
- ・ 新幹線他、公共交通機関での移動

## 成果整理・発表

---

研修の振り返りディスカッションで学びを振り返り、各々の成果を個別報告書にまとめました。それとは別にグループごとにテーマを決め、研修生や研修スタッフに向けてプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションの最後には帰国後の行動計画について個々にスピーチをし、新たな目標を発信しました。

## 2. 研修生リスト

1	ブラジル	アラサ学院
2	ブラジル	パラナ州立学校
3	ブラジル	マッサリ・カラザウ校
4	ブラジル	アントニオ・パジーリャ州立学校
5	ブラジル	SESI-SP ミランドーポリス校
6	ブラジル	ウニスズ学院
7	ブラジル	SESC 高等学校
8	ブラジル	ノッサ・セニョーラ・ド・カルモ教区学院
9	ブラジル	レジストロ技術学校
10	ブラジル	アリス・サレルモ州立学校
11	ブラジル	エリート教育ネットワーク校
12	ブラジル	聖アウグスティノ学校
13	ブラジル	アマゾニア・アドベンチスト大学
14	ブラジル	レオナルド・ダ・ヴィンチ教育センター
15	アルゼンチン	アンヘル・デリア学院
16	アルゼンチン	日亜学院
17	アルゼンチン	アラジャネス学院
18	パラグアイ	ビジャ・モラ・バプテスト学院
19	パラグアイ	カンボアルト学院
20	パラグアイ	テクニコナショナル 高校
21	ペルー	ラ・ウニオン ペルー 日系人学校
22	ペルー	ペルー 応用科学大学
23	ペルー	ペルー 応用科学大学
24	ボリビア	モンテッソーリ・スクール
25	ボリビア	ケンブリッジ高校
26	ボリビア	ドミンゴ・サビオ校
27	メキシコ	ルイス・サルミエント学院
28	メキシコ	Tモンテレイ工科大学 メキシコ州キャンパス
29	コロンビア	カリ・コロンボ ブリタニコ学院
30	ドミニカ共和国	クリスチャン・コミュニティ・スクール
31	ウルグアイ	克蘭ドン学院
引率者	ブラジル	州立セアラ大学
引率者	アルゼンチン	フロレンシオ・バレラ日本語学校
引率者	ボリビア	ラパス補習授業校

# 3. プログラム日程

実施日	曜日	朝会 8:45	9:00~ 9:50	10:00~ 10:50	11:00~ 11:50	11:50~ 13:30	13:30~ 14:20	14:30~ 15:20	15:30~ 16:20	夕会 16:30~	実施場所
1/13	火	到着日									
1/14	水	朝会	アイスブレイク (~10:35)	開講式	昼休み	研修 オリエンテーション			夕会	JICA横浜会議室	
1/15	木	朝会	国紹介プレゼンテーション		昼休み	海外移住 資料館見 学	移民の歴史 ワークショップ (Family tree,年表作 り)		夕会	JICA横浜会議室 海外移住資料館	
1/16	金	朝会	大学訪問 オリエン テーショ ン	日本との懸け橋 (講義+留学生交流会)	昼休み	講義1：日系人のアイデンティ ティ			夕会	JICA横浜会議室	
1/17	土	休日									
1/18	日	休日									
1/19	月	朝会	高校体験入学・ホームステイ オリエンテーション 事前準備		昼休み	文化体験 茶道			夕会	JICA横浜会議室	
1/20	火	朝会	大学訪問		大学生と学食 体験	アフリカ・アジアの留学生との交流 大学の講義模擬体験			夕会	横浜国立大学	
1/21	水	朝会	馬車道ツ アー 事前学習	海外移住に関する 史跡めぐり 馬車道ツアー	昼休み	講義2：移民の歴史			夕会	馬車道地区 JICA横浜会議室	
1/22	木	高校体験入学・ホームステイ									森村学園中・高等部 横浜隼人高等学校 川崎市立橋高等学校
1/23	金										
1/24	土										
1/25	日	休日									
1/26	月	施設見学									埼玉県児玉郡
1/27	火	朝会	報告書作成オリエンテーション 発信のためのスキル		昼休み	研修旅行 オリエンテーション (訪問先の事前学習)	施設案内 (15:00-16:30)	夕会	JICA横浜 会議室		
1/28	水	二泊三日研修旅行									広島県広島市 兵庫県神戸市 京都府京都市
1/29	木										
1/30	金										
1/31	土	休日									
2/1	日	休日									
2/2	月	朝会	帰国オリ エンテー ション	振り返り ディスカッション	昼休み	報告書作成			夕会	JICA横浜会議室	
2/3	火	朝会	最終発表準備		昼休み	最終発表リハーサル			夕会	JICA横浜会議室	
2/4	水	朝会	発表準備	最終発表	昼休み	閉講式・懇親会			夕会	JICA横浜会議室	
2/5	木	離日									

## 4. プログラム内容

### Day 1

1/13(火)



#### ● 到着日

長いフライトお疲れ様でした！高校生研修生31名が、中学生研修生とともに、元気いっぱい成田空港・羽田空港にそれぞれ到着しました。

### Day 2

1/14(水)

#### ● アイスブレイク

研修生同士の交流を深めるため、アイスブレイクとして各種のゲームを行いました。初めて会った研修生同士ですが、ゲームで何回も名前を呼び合うことで、あっという間に距離が縮まりました。



#### ● 開講式

JICA横浜植木次長による温かい歓迎の挨拶とスタッフ紹介の後、研修生ひとりひとりが来日前に準備してきた1分間のスピーチを行いました。緊張しながらも自分の言葉でしっかりと発表する研修生の姿には誇りと期待が見てとれました。



#### ● オリエンテーション

研修生が安心して研修に臨めるよう、研修の進め方や生活上の注意点について説明するオリエンテーションを行いました。

## Day3

1/15(木)

### ● 国紹介プレゼンテーション

研修生は来日前に準備してきた自己紹介と国紹介のプレゼンテーションを行いました。自分の国以外の日系社会を知る機会が少なかった高校生の研修生にとっては、国を超えて同じような社会で育った仲間がいることに気づく機会となりました。



### ● 海外移住資料館見学

資料館ガイドに、日本人の海外移住の歴史を説明してもらいました。初めて知ることも多く、みな興味を持って臨みました。



### ● ファミリーツリー作り

事前に自分のおじいさんやおばあさんに聞き取り調査をし、それをファミリーツリーとして可視化しました。



## Day4

1/16(金)



### ● 日本との懸け橋（留学生交流会）

日本への留学制度の説明のあと、実際にそれらの制度を使って日本で勉強している留学生に直に話を聞く機会を設けました。それによって、自分の進路がより具体的にイメージできるようになりました。

### ● 講義：日系人のアイデンティティ



自らも日系人である講師によるこの講義では、多くの研修生が自らのアイデンティティについて大きな気づきを得る、貴重な機会となりました。

# Day5

1/19(月)



● 高校体験入学・ホームステイオリエンテーション  
研修生たちが最も楽しみにしているプログラムのひとつ、高校体験入学・ホームステイについて、安心して臨めるよう、持ち物、学校ごとのルール、ホストファミリー宅での注意など、スタッフによるオリエンテーションを行いました。

● 文化体験：茶道教室  
研修生たちは、講師の茶道の心についての説明を聞いた後、ひとつひとつの所作に興味深くみつめていました。  
そのあと、和菓子には季節を表す色や形があるという説明を聞き、実際に食べてみたり、自分でお茶を点てて飲む体験をしました。



# Day6

1/20(火)

## ● 大学訪問

留学生として大学で勉強している日系人学生、アジア・アフリカから来た学生たちと交流したり、大学の授業に参加したりしました。



Day7

1/21(水)



ララ物資の碑

● 海外移住に関する史跡巡り  
馬車道~みなとみらい地区の海外移住に関する史跡を徒歩で巡りました。日本とブラジル、日本とペルーの友好のモニュメントや、戦後日本へ支援物資を送るなどして祖国の復興に貢献した日系人の功績を記した碑などを訪ねました。



日本とブラジルの友好モニュメント



日本とペルー友好の「リマちゃん像」



● 「移民の歴史」講義：移住資料館での学びを元に、日系人の講師から移民の歴史についての講義を受けました。来日前に課されていた事前課題をもとに、自らのルーツについての考察を深めました。



# Day8~10

1/22(木)~  
1/24(土)

## ● 高校体験入学・ホームステイ

横浜市内・川崎市内の高校3校にわかれて参加しました。  
体験入学では、日本人の高校生と一緒に授業を受けたり、学食でランチを食べたり、日本の高校生の日常を体験しました。



歓迎の黒板アート



理科の実験



教室にて



体育の授業



食券の買い方も覚えました



高校の学食で



高校の課外活動として、日本舞踊や華道・茶道体験に参加する研修生もいました。ホームステイでは、それぞれの家庭で家族のように受け入れられ、充実した時間を過ごしました。



# Day11

1/26(月)



## ● 施設見学：日系ブラジル人経営の農場と学校訪問・視察

埼玉県でねぎ農場と学校を運営されている日系ブラジル人の施設を訪問しました。20代で来日し、経営者として成功するまでの歩みや、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育、外国人雇用への貢献など、日本とブラジルの懸け橋として幅広く活動されている姿は、研修生にとって大変刺激となり、将来の自分たちの可能性を考える大きなきっかけとなりました。

# Day12

1/27(火)



## ● 報告書作成オリエンテーション

講師の指導のもと、研修での学びを、どのように報告書にまとめたらいいか、学びました。



## ● 研修旅行オリエンテーション

資料を用いながら、研修旅行の行程の確認や、訪問先の事前学習を行いました。



# Day13~15

1/28(木)~1/30(金)

## ● 研修旅行1日目

1日目は、新横浜から広島まで新幹線で移動しました。途中車窓から雪景色が見え、研修生たちは珍しそうに写真におさめていました。広島に着いた後、路面電車で広島平和記念公園へ移動、市民ガイドの説明を聞くツアーに参加しました。広島に関するクイズで場が和んだ後、広島の被爆について、公園内だけでなく爆心地の案内も含めて詳しい話を聞くことができました。広島平和記念資料館では各言語の音声ガイドを利用し、各自のペースで見学しました。



新幹線乗車



上：平和記念公園ガイドツアー



左：原爆ドーム前で

右：お好み焼き体験



## ● 研修旅行2日目

神戸へ移動し、神戸市海外移住と文化の交流センターを見学しました。神戸港は横浜港と同じように多くの移民船が出航した場所でもあります。移住者たちが出航を待ちながら滞在した当時そのままの部屋や、移民船の模型があり、祖先の思いを感じる体験となりました。その後祖先が歩いた道を辿りながらメリケンパークまで歩き「希望の船出」像前で記念写真を撮りました。



● 研修旅行 3日目

3日目は、京都を観光しながら日本の伝統文化にふれました。伏見稲荷のあと清水寺を参拝し、参道を自由に歩きながら京都の雰囲気を味わいました。



● 伝統文化体験  
伝統的な型染の技法を使い、ハンカチに絵付けをしました。自分の記念に、または家族へのプレゼントに、と思いの型を使って、楽しみながら完成させることができました。

## Day16

2/2(月)

### ● 帰国オリエンテーション

「研修のしおり」を用いて、帰国日の集合時間などの確認と、帰国に向けた注意事項や手続きについてオリエンテーションを実施しました。



### ● 振り返り

研修全体の振り返りを行いました。これまでのプログラムで得られた知見や日系人としてのアイデンティティの再発見などの成果を、まずは個人個人で、次にそれぞれのグループで整理し、今後の活動や学習にどのように活用できるかを確認しました。それらのデータを整理し、個人報告書やグループでのプレゼンテーションの準備を行いました。

## Day17

2/3(火)



### ● 最終発表準備

翌日グループごとに行う研修の学びのプレゼンテーションの準備を行い、その後、リハーサルを実施しました。パワーポイントの内容を整理し、意図が正確に伝わるように確認するとともに、発表時の聴衆への視線や声の出し方などにも注意を払う練習を行いました。

# Day18

2/4(水)



● 最終発表会 この研修で体験したこと、学んだことの成果をグループごとに発表しました。発表のあと、帰国後の日系社会との関わり方と目標をそれぞれが1分ずつのスピーチとして宣言しました。

● 閉講式 JICA横浜の大野所長による挨拶のあと、修了証授与式を行いました。最後は研修生代表によるスピーチをもって締めくくりました。



● 懇親会 閉講式に参加した関係者と研修生の懇親会を行いました。研修生有志によるダンスや歌の披露があり、会場全体が和やかな雰囲気になりました。



# Day19

2/5(木)

● 離日 研修生同士、また研修期間を通して関わったスタッフと別れを惜しみながら、研修の成果を胸に帰国の途につきました。



## 5. 研修生の感想

---

※各研修生が提出した最終報告書のまとめ部分です。

(英語から日本語への翻訳は特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金関係者が行いました。)

## 研修生No.1 (ブラジル) アラサ学院

ブラジルや南米の他のコミュニティについて学べたことが印象的でしたが、特にパラグアイやボリビアのコミュニティには強い感銘を受けました。これらの国々は大規模な移民の波や日系人への大きな迫害を経験していないためか、コミュニティが非常に強く、結束しているように感じました。文化や伝統がしっかりと維持されており、非常に優れた例だと思いました。自分のコミュニティを改善するためのモデルだと感じています。

## 研修生No.2 (ブラジル) パラナ州立学校

講義で一番感銘を受けたのが「日系人は、あなたの国との“架け橋”として頑張る義務はありません」という言葉です。この言葉が僕の肩の荷を降ろしてくれました。日系人だからこそ絶対に、必ず「架け橋」の役割をしないといけない、というプレッシャーが苦しかったのでこの言葉を聞いた時は助かりました。これからは日系人と言う肩書きで架け橋となるのではなく、自分の自己判断で日系人という一つのアイデンティティを活用して架け橋となっていきたいです。

## 研修生No.3 (ブラジル) マッサノリ・カラザワ校

ホームステイ体験は、間違いなくこのプログラムの中で最も大きな変化をもたらした出来事の一つでした。ホストファミリーと生活を共にすることで、特別なイベントではなく日常生活を通して日本を内側から体験することができました。食事を共にすること、家庭のルールに従うこと、家族に挨拶をすること、一緒に通学すること、こうした一つ一つの行動が、どんな講義よりも日本の価値観を教えてくださいました。

## 研修生No.4 (ブラジル) アントニオ・パジーリャ州立学校

プログラムの初めには、日本の習慣に適應することいくつかの困難を感じました。特に時間厳守、日常のルーティン、社会的ルールに関しては大きな違いがありました。時間管理や厳格なスケジュールは当初とても難しく感じられましたが、日が経つにつれて、観察と実践を重ねることで徐々に適應していきました。プログラム開始時と比べて、規律、責任感、ルールへの尊重という点で自分が大きく成長したと強く感じています。

## 研修生No.5 (ブラジル) SESI-SP ミランドーポリス校

家族や友だちに、けんしゅうでのけいけんや学んだことをぜんぶつたえたいです。ブラジルと日本のちがい、学校でのけいけん、ホームステイのけいけん、日本のせいかつについてつたえたいです。また、友だちにもこのけんしゅうにさんかしてほしいです。とてもたのしくて、たくさんのちしきやけいけんを学ぶことができるからです。

(原文：日本語)

## 研修生No.6 (ブラジル) ウニスズ学院

このプログラムはコミュニケーション能力、自己成長、自立といった面で非常に有意義で素晴らしい経験でした。新しい人々と出会い、他の研修生や似た経験を持つ人々と話すことで、多くのことを学びました。特に移民や日系人の価値観についての理解を深めることができました。異なる文化を持つ人々と関わり、言語の壁もある中で協力する経験は、問題解決能力やコミュニケーション能力を高めることにつながりました。

## 研修生No.7 (ブラジル) SESC 高等学校

この交流が終わった後、私はブラジルと日本をつなぐ架け橋のような存在になりたいと考えています。そして将来、この分野で重要な仕事に携わり、かつての自分と同じような状況にいる若者たちが日系人としての自分を見つめられるよう支援したいと思っています。また、このコミュニティの一員であることの素晴らしさを示し続けていきたいです。この交流を一言で表すなら、こう言います。「私は何一つ後悔していない。なぜなら、誇りを持って自分の道を築いているからだ。」

## 研修生No.8 (ブラジル) ノッサ・セニョーラ・ド・カルモ教区学院

渡日前に家系図を作成する準備のため、普段あまり話さない祖母と話さざるを得ませんでした。しかし、その時間はとても貴重で、これまでにない経験となりました。このことから、このプログラムによって家族との距離が近づいたと感じています。さらに、博物館訪問や移民の歴史、彼らが経験した困難について学ぶことで、自分のルーツをより深く理解することができました。日本人移民について知識を深め、祖先がどのようにブラジルに渡り、適応し、家族を築いてきたのかを知ることは非常に興味深いものでした。

## 研修生No.9 (ブラジル) レジストロ技術学校

最も印象的だったのは、日系アイデンティティに関する講義です。自分のアイデンティティについてはこれまでずっと混乱を感じていたからです。ブラジル人からは日本人と見られ、日本人からはブラジル人の外国人と見られていたからです。そのため、自分がどこにも本当に当てはまらないように感じていました。しかし、この講義を受けて考え方が変わりました。どちらか一方を選ぶ必要はなく、この「混ざり合ったアイデンティティ」こそが自分なのだとして理解できたのです。今では、自分のアイデンティティに対してより自信を持てるようになりました。

## 研修生No.10 (ブラジル) アリス・サレルモ州立学校

高校体験入学での時間は非常に印象深いものでした。生徒たちはとても親切で、課外活動や部活動が充実している点に驚きました。これはブラジルの学校ではあまり見られない特徴であり、教育制度の違いについて考えるきっかけとなりました。また、放課後に大学生と交流する機会もあり、日本の学生生活について理解を深めることができました。

## 研修生No.11 (ブラジル) エリート教育ネットワーク校

最も心に残った場所は広島市の平和記念資料館です。そこは決して明るく楽しい場所ではなく、重く冷たい現実が突きつけられる場所でした。生存者や亡くなった人々のこと、出来事の経緯や原因、そしてその影響について学びました。決して「良い経験」とは言えませんが、多くのことを考えさせられ、自分の物の見方を大きく変えるきっかけとなりました。すべてが混乱の中にあつた状況でも未来のために懸命に生き抜こうとした人々の姿は、決して忘れることができません。

## 研修生No.12 (ブラジル) 聖アウグスティノ学校

茶道体験が非常に印象に残りました。一つ一つの所作から、日本の伝統における集中力や忍耐が感じられました。その厳格さや、芸術を完璧に仕上げようとする情熱は、日本文化の中でも特に尊敬できる点です。高校の茶道部の生徒たちが、茶筌を使って抹茶を点てる様子を見たとき、その動きがとても正確で美しいと感じました。実際に研修プログラム内での茶道体験で講師の指導の下体験してみると、その難しさや、技術によって仕上がりが大きく変わることを実感しました。

## 研修生No.13 (ブラジル) アマゾン・アドベンチスト大学

この経験は単なる思い出にとどまらず、学業・職業・社会的な成長のための重要な資源になると考えています。日本で学んだことを、栄養学の勉強や日系コミュニティでの活動に活かしながら、将来の進路を築いていきたいと思います。そして、ブラジルにおける日系人の可能性を示し、文化・知識・アイデンティティをつなぐ未来を築く一助となることを目指しています。

## 研修生No.14 (ブラジル) レオナルド・ダ・ヴィンチ教育センター

研修が進むにつれて、移民に関する講義や見学が増え、それが最も印象的でした。海外移住資料館では、移民の背景や歴史、広告による移住促進や出稼ぎについて学びました。その後、自分の家系図を作成し、祖先がどのように日本から各国へ移動したのかを視覚的に理解しました。この活動を通して、祖父母や曾祖父母の努力に誇りを感じました。

## 研修生No.15 (アルゼンチン) アンヘル・デリア学院

日本人移民の歴史、特にアルゼンチンとの関係について学んだことは、このプログラムの中でも特に意義深いものでした。多くの内容が祖父から聞いていた話と重なり、それまで単なる家族の物語だったものが歴史的な文脈の中で理解できるようになりました。移民の歴史は過去の出来事であるだけでなく、現在のアイデンティティにも関わるものだと実感しました。

## 研修生No.16 (アルゼンチン) 日亜学院

今の自分の気持ちを言葉にするのはとても難しいです。この3週間の経験を通して、私は社会性やリーダーシップだけでなく、自分自身についても深く知ることができました。しかし同時に、今の私は混乱しています。けれど、この経験があったからこそ、今の自分の状態にたどり着いたのだと思います。この迷いは不安でもありますが、同時に嬉しくもあります。なぜなら、自分のアイデンティティを探し続けることができるからです。遠い存在だと思っていた文化が、同時にとても自分自身のものであると感じられるようになりました。

## 研修生No.17 (アルゼンチン) アラジャネス学院

このプログラムではさまざまな国から来た多くの新しい友人と会うことができました。異なる文化的背景を持つ人々と交流し、それぞれの文化や生活様式、考え方について学び、多くの経験を共有しました。日々の会話を通して各国の表現やスラングを学び、実際の場面で英語を使うことで語学力も向上しました。この経験により、自分のコンフォートゾーンから一歩踏み出すことができました。

## 研修生No.18 (パラグアイ) ビジャ・モラ・バプテスト学院

異なる文化を持つ研修生と経験を共有する中で、違いがあっても祖先から受け継がれてきた価値観は共通していることに気づきました。こうしたつながりはとても大切で、これからもずっと心に残るものになると思います。その中でも特に印象に残った国はブラジルです。言語の壁はあるものの、ブラジルはぜひ訪れてさらに学びたいと思う場所になりました。

## 研修生No.19 (パラグアイ) カンポアルト学院

いざ日本に行って交流してみると、研修生たちとすぐに意気投合しました。パラグアイでは伝わらないようなネタがすぐ伝わる、自分の国の人たちとの考え方の違いについての不安などすべて共感しました。これは初めての感覚で、こんなに人に共感される、話が通じるのは初めてでした。まるで初対面じゃないような昔から知ってる感覚でした。僕はこの時この人たちに出会えてまるで運命みたいだと思いました。(原文：日本語)

## 研修生No.20 (パラグアイ) テクニコナショナル高校

ホームステイを通して、日本の家庭の日常生活を体験したことは大きな学びとなりました。家族同士の挨拶や感謝の言葉、時間を守る意識、相手を思いやる行動など、どれも特別なことではなく「当たり前」として自然に行われている点が印象的でした。その背景には、日本社会が長い歴史の中で培ってきた価値観や文化があることを実感しました。(原文：日本語)

## 研修生No.21 (ペルー) ラ・ウニオン ペルー日系人学校

いちばん楽しかったのは、高校体験入学です。参加する前は、日本人に対して少しよそよそしく、あまり人づきあいが得意ではないという先入観を持っていました。しかし、生徒や先生と日々関わる中で、その考えはすっかり変わりました。十分ではない日本語の力でも、簡単な言葉で自分から話しかけるようにしたところ、温かく迎えてもらえました。そのおかげで、心から信じ合える友だちができ、日本での暮らしをより身近で自分のこととして感じることができました。

## 研修生No.22 (ペルー) ペルー応用科学大学

人それぞれの価値観や性格、この世界に存在する無数の生き方。私たち研修生は皆、異なる国から来ていても、異なる好みや恐れ、信念を持っていても、一つになれるのだと感じました。私たちは皆違い、誰一人として同じではありませんが、それでもどこか似ているのです。そして成長したい、理解し合いたいという共通の思いのおかげで、私たちは切っても切れない存在になりました。まるで家族のように。それは生まれた家族ではなく、自分たちで選び、所属すると決めた家族です。

## 研修生No.23 (ペルー) ペルー応用科学大学

神戸訪問では、移民の歴史についてさらに深く理解することができ、自分自身のルーツとのつながりを感じました。日系コミュニティの歴史がハワイやブラジルから始まったことを学び、国ごとに異なる形でアイデンティティが表現されていることを知りました。また、自分の家族の出発港などを調べる課題も非常に興味深く、授業で学んだ内容と自分の歴史を結びつけることができました。

## 研修生No.24 (ボリビア) モンテッソーリ・スクール

このJICA研修で最も印象的だったのは、これらすべての経験が一体となり、個人の成長と責任感を育ててくれたことです。大学・高校などの学校訪問、地域の人々との交流、そして日系人が文化の架け橋として果たす役割についての議論を通じて、自分のアイデンティティや社会における役割について深く考えるようになりました。このプログラムは知識を与えるだけでなく、それを帰国後にどのように活かすかを考えさせてくれるものでした。

## 研修生No.25 (ボリビア) ケンブリッジ高校

この経験の中で最も印象的だったのは、私たち研修生が非常に短い期間で日本文化に適応できたことです。私たち日系人はもともと日本文化の影響を受けて育っているため、比較的早く適応できたのだと思います。そして、日本での習慣を「変だ」と感じなかったことも印象的でした。それによって、自分が日系人であることをより誇りに思うようになりました。南米で生活していても、部分的には日本人のような感覚を持っていたのだと気づきました。

## 研修生No.26 (ボリビア) ドミンゴ・サビオ校

日本の高校体験では、生徒たちが授業に集中し、先生の話真剣に聞いている姿がとても印象的でした。分からないところがあると、友だち同士で自然に教え合ったり、先生と少し冗談を言う場面があっても、授業の雰囲気はきちんと保たれていて、私が思っていた以上に楽しく、充実した学校生活だと感じました。初日は不安もありましたが、だんだん学校に行くのが楽しみになり、時間があっという間に過ぎました。最終日には、生徒のみんなが小さなお別れ会を開いてくれて、たった三日間でできた友達と別れるのはとても寂しく、胸がいっぱいになりました。(原文：日本語)

## 研修生No.27 (メキシコ) ルイス・サルミエント学院

「文化の架け橋としての日系人」というテーマはとても重要だと感じました。しかし私自身は、「架け橋」という考え方は完全には正確ではないと考え、新たに次のような比喻を考えました。JICAや日本人移民が橋の土台であり、各団体がその壁であり、そして私たちはその橋を渡る存在です。日本人の子孫である私たちの役割は、その橋を渡った後、それを守り、維持し、さらに広げて、より多くの人々が渡れるようにすることです。

## 研修生No.28 (メキシコ) Tモンテレイ工科大学 メキシコ州キャンパス

メキシコに帰国したら、これらの経験や学びを日系コミュニティや家族、友人たちと共有していきたいと思います。なぜなら、これらは自分だけのものにしておくのではなく、共有されるべきものだと感じているからです。この貴重な機会に心から、そして永遠に感謝しています。そして、ここで経験したすべてのこと、出会ったすべての人々は、これからの私の成長の中でずっと支えとなり続けるでしょう。

## 研修生No.29 (コロンビア) カリ・コロンボ ブリタニコ学院

横浜の大学では、多くのチャンスがあり、人前で話すことや目立つことへの恐怖を克服する必要がありました。私は幼い頃から目立つことを恐れていましたが、この経験を通して「目立つことは怖いものではない」と学びました。むしろ、自分が一歩踏み出すことで他の人も同じように挑戦できるようになるのです。帰国後は自分らしく輝き、他の人にも影響を与えられる存在になりたいと考えています。

## 研修生No.30 (ドミニカ共和国) クリスチャン・コミュニティ・スクール

日本の文化・伝統・歴史について学んだだけでなく、このプログラムに参加していた他国の文化についても多くの学びを得ることができました。彼らの話を聞き、日本人移民が世界各地でどのように新しい生活を築いてきたのかを知ることで、私たちのコミュニティがどれほど強く、適応力に優れているのかを理解することができました。また、伝統を守りながらも新しい文化に溶け込んでいく様子はとても興味深いものでした。

---

## 研修生No.31 (ウルグアイ) クランドン学院

私は日本に来て人生で初めて、「日本人」としてではなく「ウルグアイ人」として見られたのです。これは私にとってまったく新しい経験でした。私の出身地では、完全に社会に溶け込むことが難しく、私たちは常に「外国人」として見られてしまいます。日本でも外国人であることには変わりありませんが、その感覚は違いました。確かに外国人ではありましたが、それを誇りに思うことができたのです。自分の国に誇りを持ち、自分らしくいられることに喜びを感じました。

## 引率者の所感

(ブラジル) 州立セアラ大学

(アルゼンチン) フロレンシオ・バレラ日本語学校

(ボリビア) ボリビア日系協会連合会

今回の次世代育成研修プログラムには、中南米9カ国から15~18歳の、2世~4世の日系人31名が参加した。研修生は3週間強の日本滞在を通じて、彼らの祖先ら、日本人の海外移住の歴史や自分たちのルーツを学び、日本文化や習慣を体験することで、日系人としてのアイデンティティに向き合う挑戦をした。

研修の初め、それぞれの住む国や都市、日系社会での活動についてのプレゼンテーションを行った。準備を通じて自分のコミュニティを再確認でき、さらに他の研修員の発表を聞くことで、中南米の日系社会についての理解を深めることができたはずである。その後、祖先や家族の歴史を確認するために家系図づくりに挑戦したが、初めて家族から祖先の話聞いた研修生や、自分が3世ではなく4世であることを確認した研修生もあり、それぞれが自らのルーツを再認識する良い機会となった。

移住史については、講義や海外移住資料館（JICA横浜）、「海外移住と文化の交流センター」（神戸）の見学、横浜での移住に関する史跡の訪問を通じて学んだ。移住資料館の閲覧室見学は短時間であったが、自分の所属する日系人団体の記念誌や祖先が乗った船の名前が書いてある資料の背表紙を見つける等、自分と結び付いた具体的な発見があって印象的だったようである。また、「日系人とは何か」をテーマとした講義では、生まれた国と日本、そして日系人としてのアイデンティティの全てを受け止めて、物事の良い面や可能性に目を向け、前向きに考える思考習慣を獲得するヒントになったのではないかと思う。さらに、日本で事業に成功した在日ブラジル人の話を直接聞く機会、横浜国立大学での日系人留学生との交流を通じて、将来を考える上での選択肢が増えた研修員もいたと思われる。

文化体験では、茶道や寺社見学、友禅絵付け、一部の研修生は、体験入学した高校で、着物着付け、日本舞踊や華道といった伝統文化も体験することができた。高校体験入学やホームステイを通じて、同世代の日本人高校生と交流し、一般家庭で過ごすことにより、また、インバウンドの観光客であふれる京都の観光地をそぞろ歩いたことで、伝統文化と現代の生活の両方に触れ、それらが両立している日本を肌で感じ、日本文化への理解を一層深めることができただろう。

研修員は終盤に報告書作成や最終発表（グループ）の準備を行い、今後の日系社会への関わり方や将来の目標をそれぞれに熟考した。成果がすぐに見えるとは限らないが、研修で得たいろいろな経験や仲間となった研修生同士のつながりが、今後の日系社会をリードする力となっていくことを期待している。

この研修に引率者として参加し、若い世代の日系人が自らのルーツ、アイデンティティに向き合う姿を間近で見ることができ、大変興味深く感じた。彼らの話から学ぶ点も多く、日系社会を見る新たな視点を獲得することができた。また、多くの方々との出会いは大きな成果であり、今後とも交流を続けたいと思える友人を得られたことを嬉しく思う。

本研修の実施にあたり、関係諸機関の方々のご尽力により、貴重な機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。

## 6. 総評

本研修は、参加した日系人高校生たちにとって、日本に関する知識を習得するのみならず、自己のルーツおよびアイデンティティを省察する貴重な機会として機能しました。講義・施設見学・交流活動・ホームステイ等の多様なプログラムを通じて得られた学びと気づきは、研修生の感想や日々のコメントからも明確に読み取ることができました。その中でも特に注目すべき点は、多くの研修生が「自分は何者であるか」という実存的問いに正面から向き合い、それを肯定的に再構築していったプロセスです。出身国と日本との間で生じていたアイデンティティの葛藤や混乱が、「両者を並立的に受容してよい」という認識へと転換され、各自が固有のあり方を模索・確立していく過程が確認されました。また、「架け橋」としての役割についても、外部から付与された義務としてではなく、内発的動機に基づく主体的関与として捉え直す変容が見られました。このようなプログラムは誠に貴重であると考えます。

講義・ワークショップおよび資料館見学等においては、日本人移民の歴史的経緯と各国における日系コミュニティの形成過程への理解を深めていくことになりました。その経験を通して、自らの家族史と照合して考察することで、祖先に対する感謝と誇りの意識が醸成される契機となったことも特筆すべきことであると考えます。

ホームステイおよび学校訪問では、日本の生活様式や文化的規範を日常的文脈において体験的に習得し、礼節・他者への配慮・時間的規律といった価値観を実感的に内面化しました。言語的・環境的差異に直面しながらも、能動的に関与しようとする姿勢のなかに、参加者の顕著な成長が認められたことは感動に値するものでした。

さらに、各国から集まった日系高校生研修生間の交流を通じて、文化的・言語的差異を超えた相互理解と連帯が形成され、次世代日系ネットワークが構築されました。JICA横浜や空港で別れを惜しむ姿は家族のような絆を彷彿されるものでした。こうした経験は、参加者各自が母国に戻り、そこでも関係性を継続させる大きな力となると確信しております。

帰国後もすでに多くの発信をされておられ、多くの参加者が本研修での学びを周囲へ伝え、次世代へと継承していくことに取り組まれています。研修を通じて獲得された経験・知見・人的ネットワークが、それぞれの国や地域において実践的に活用されることが期待されます。

最後に、本研修の実施にあたりご支援・ご協力を賜りましたすべての関係者の皆様方に、深い謝意を表します。誠にありがとうございました。

認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金理事長  
藤掛洋子

## 7. 添付資料（募集要項）

---

2025 年度  
「日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）」  
募集要項

2025 年 1 月



独立行政法人国際協力機構（JICA）

# 目次

【研修の沿革および目的】 .....	2
【研修員】 .....	2
1. 対象国および受入計画数 .....	2
2. 研修概要 .....	3
3. 資格要件 .....	3
4. 所要経費 .....	4
5. 応募書類 .....	4
6. 応募書類の提出締切と提出方法 .....	6
7. 受入決定 .....	7
8. 研修員の資格取り消し .....	7
9. 帰国報告会 .....	7
10. 施設利用 .....	7
11. その他 .....	7
【引率者】 .....	8
1. 引率者の招へい .....	8
2. 2025 年度引率者選出国 .....	8
3. 資格要件 .....	8
4. 所要経費 .....	9
5. 応募書類 .....	10
6. 応募書類の提出締切と提出方法 .....	11
【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】 .....	12
別紙 1 研修員 応募書類様式 .....	13
別紙 2 引率者 応募書類様式 .....	13
別紙 3 研修員・引率者共通 応募書類様式 .....	13

2025 年度「日系次世代育成研修（高校生招へいプログラム）」  
募集要項

【研修の沿革および目的】

中南米の日系社会では世代交代が進み、2 世、3 世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

本研修では、これまで来日機会に恵まれなかった優秀な日系高校生が、本邦での様々な交流を通じ自らの考えを発信する機会を持つこと、また、本研修で得た知識や成果を基に日系社会をリードする発信力のある人材へと育成されるとともに、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて、自分たちのルーツと日本に対する理解を深める、さらに自らの日系人としてのアイデンティティを改めて意識することをねらいとしています。

【研修員】

1. 対象国および受入計画数

12 カ国 31 名（+引率者 3 名）

対象国	人数
ブラジル	14
アルゼンチン	3
パラグアイ	3
ペルー	3
ボリビア	3
メキシコ	2
コロンビア	1
ドミニカ共和国	2*
ベネズエラ	
ウルグアイ	
チリ	
キューバ	

※ドミニカ共和国、ベネズエラ、ウルグアイ、チリ、キューバの 5 か国から 2 名の受入枠とします。

## 2. 研修概要

### (1) 内容

	単元目標	想定される研修項目
1	日本人の海外移住の歴史の理解、また自分のルーツを学ぶことを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 海外移住資料館等の見学。</li><li>・ 移住に関する講義、ワークショップ。</li><li>・ 各研修員のルーツを探る。</li><li>・ 2泊3日の研修旅行。</li><li>・ 移住学習につながる事前課題等。</li></ul>
2	日本の文化、習慣を学び日本に対する理解を深めることを通じて、日系人としてのアイデンティティを涵養する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日本理解に関する講義、ワークショップ、視察見学等。</li><li>・ 高校体験入学で日本の高校生との交流、高校生活（授業、部活動等）の体験。</li><li>・ ホームステイで日本の家庭生活を体験する。</li><li>・ 2泊3日の研修旅行。</li><li>・ 日系留学生や日系社会研修員との交流会。</li></ul>
3	自らの考えを発信する機会を持つことを通じて、日系社会をリードする発信力のある人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ プレゼンテーション方法の指導、実践。</li><li>・ 報告書作成。</li><li>・ 講義、視察等を通じた学習成果及び帰国後将来の目標や計画の発表報告会。</li></ul>

**【重要】** 実際の研修内容が上記から変更となる可能性があります。

### (2) 研修期間（予定）：24日間

2026年1月13日（火）から2026年2月5日（木）

### (3) 使用言語

英語/日本語

（講師が日本語で講義を行う場合は英語の通訳を配置します。）

## 3. 資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

### (1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

### (2) 研修参加時点での年齢が日本の高校生相当（16歳以上、18歳以下）であること。

- (3) 本事業対象国の教育機関に所属し、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するに十分な素質があると認められること。
- (4) 自分のルーツや日本に対する理解を深める強い意志があること。
- (5) 日常会話レベルの日本語力を有することが望ましい。また、研修の講義を受講し、かつ議論に参加できるレベルの英語力を有すること。
- (6) 心身ともに健康であり、本邦での集団生活に耐えられること。
- (7) 来日から帰国まで JICA 指定の全日程に参加できること。
- (8) 親権者または保証人の同意が得られること。

#### 4. 所要経費

規程（技術研修員手当等支給基準（平成 16 年 4 月 1 日細則（国内）第 6 号）に基づき次の経費を JICA が負担します。

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担します。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費  
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。  
※乗継時間 6 時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中生活費（食費）は、規定に応じて来日後に日本円で支給します。  
※日をまたがない 6 時間以上の第三国滞在中の場合、生活費は支給されません。

〈支給額〉

- 1) 本邦滞在中 生活費 2,200 円/日 ※朝食及び夕食費として  
（ただし、現物支給されない日のみ現金支給とします。）
- 2) 第三国滞在中 生活費 4,000 円/日 ※朝食費、昼食費及び夕食費として

- (5) 本邦宿泊施設の利用料金

- (6) 海外旅行保険料

原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。

〈留意事項〉

各国の国内線利用区間は保険対象外です。

- (7) 所外研修、高校での研修、研修旅行のために必要な交通費

- (8) 研修先に対する研修経費

#### 5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2025年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

(1) JICA 様式

1) 身上書

(様式第1号)

・パソコン入力可。

・氏名（日本語）：

この書類に書かれた氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、査証手続き書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに**記入してください。漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

・氏名（アルファベット）：

この書類に書かれた氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに**記入してください。スペル、名字と名前の順番、ミドルネームの有無にも注意して記入してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、搭乗できなくなります。

※旅券をこれから申請する方は、**必ず旅券申請する氏名表記で記載**してください。

旅券と査証、航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。詳細についてはJICA事務所からの指示に従ってください。

2) 親権者の誓約・同意書

(様式第2号)

・サインは必ず親権者に書いてもらってください。

3) 病歴申告書

(様式第3号)

・パソコン入力可（署名は自筆）

・JICA様式による自己申告です。合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。

・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。

・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください

・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医の診断書も提出してください。

・既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。

- ・研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は海外旅行保険適用外のため全額自己負担となります。  
※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。  
研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。  
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

4) 作文（将来の計画） (様式第4号)

英語又は日本語で書いてください。

- ・パソコン入力可。
- ・日本語の場合は、手書きも可。

5) 肖像権および個人情報使用承諾書 (様式第8号)

・本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報用（各種報告書含む）として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、研修員及び親権者が署名してください。

(2) 写真2枚（データ可）

最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

(3) 旅券の写し

(1) 2) 身上書に記載した通り、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

②旅券を所有していない場合

JICA からの合否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。

※合否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

6. 応募書類の提出締切と提出方法

(1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

(2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

## 7. 受入決定

応募書類を基に JICA 横浜にて最終選考を行い、合格通知を発出します。その後、外務省の短期滞在査証発給審査を行います。

## 8. 研修員の資格取り消し

研修員が次の事項に該当する場合、JICA はその資格を取り消すことがありますので、以下については、特に注意してください。

- 1) JICA の規則、指示及び決定に従わなかったとき
- 2) 研修先の規則に違反した場合
- 3) 日本国の法令に違反した場合
- 4) 本人の故意、重大な過失又は怠慢等により、研修を継続することが困難と認められるとき
- 5) 本人の都合により研修を中断したとき
- 6) 心身の障害、傷病等のために研修を継続することが困難と認められるとき
- 7) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- 8) その他 JICA が止むを得ないと認める事由があるとき

## 9. 帰国報告会

研修員は帰国後、居住地近隣の日系団体等（日本人・日系人協会、各都道府県人会等）で報告会を行うことが義務付けられています。帰国報告会の実施及びその報告書を在外事務所担当者に提出してください。報告書の様式は JICA 事務所から手交されます。  
※報告会は、研修員が体験したことについて、日系団体等に共有するとともに本事業の広報の目的としても位置づけています。

### (1) 提出締切と提出方法

在外事務所のスケジュールに従い提出してください。

### (2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

## 10. 施設利用

研修プログラムは周辺施設にて実施されることがあります。

## 11. その他

感染症や災害発生等により、研修プログラムの変更、または来日中止となることがあります。

## 【引率者】

### 1. 引率者の招へい

渡航中・研修中の研修員の生活指導・健康管理その他必要な指導のため、下記のとおり引率者を招へいします。

#### (1) 引率者の主な役割

- ・ 往路・復路における研修員の引率
  - ・ 研修員の健康等、生活面に係る指導及び対応
  - ・ 研修プログラムへの同行及び実施補助
  - ・ 引率者最終報告会の実施
  - ・ 研修員宿泊フロアの夜間巡回による安全管理・指導
  - ・ けがや急病などの一次受付、及び二次対応者への連絡
  - ・ 研修員の心身の健康管理
  - ・ 休日の研修員外出時の親族への引き渡し
  - ・ 朝の引継ぎ、夜のミーティング出席
  - ・ 朝、研修員の確認
  - ・ その他、研修員の健康・安全管理と研修実施において必要な業務
- ※研修員の年齢に応じた対応が必要になります。  
※夜間や研修プログラムの実施されていない日の対応については研修プログラム実施中の主な引率者役割へ負担とならぬよう分担して遂行していただくことを想定しています。  
※来日前（オンライン）来日後、引率者へのブリーフィングを実施します。

### 2. 2025 年度引率者選出国

- ・ 引率者 : ブラジルの日本語学校から教員 1 名  
: ブラジル、ボリビア、パラグアイ、ペルー、アルゼンチン、メキシコ、  
ドミニカ共和国、コロンビア、ベネズエラ、ウルグアイ、キューバ、チリ（研修員選出国）の日系社会から 2 名

### 3. 資格要件

#### (1) 引率者（ブラジル日本語学校教員）

- 1) 満 20 歳以上で、日本語学校での勤務歴 2 年以上であること。
- 2) 日本語学校での教師歴が 2 年以上あること。
- 3) 研修員と同年代の子弟を対象としたクラスを担当した経験があること。
- 4) 日本語能力は N2 程度以上、かつスペイン語圏の研修員とスペイン語または英語で意思疎通ができること。
- 5) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

(2) 引率者（日系社会関係者）

- 1) 20歳以上の日系社会の関係者（日本語学校教員、日本人協会会員、JICA 帰国研修員等）であること。
- 2) 日常的に日系社会で研修員と同世代の子弟と接している方が望ましい。（参加研修員の保護者は対象外）
- 3) 日本語能力は日常会話（N3）程度以上。研修員とスペイン語/英語/ポルトガル語で意思疎通ができること。
- 4) 健康で責任をもって業務を遂行できること。

4. 所要経費

規程に基づき次の経費を JICA が負担します

- (1) 指定する経路の往復航空運賃（ただし、航空券の現物支給とし、現金の支給は行いません。航空券取得に必要な税金等、国際航空施設使用料も JICA が負担。）
- (2) 本邦国際空港と宿泊施設間の移動に係る経費
- (3) 乗継のための第三国での宿泊に係る経費  
※自国内移動の際に生じる宿泊に係る経費は自己負担です。  
※6 時間未満の滞在は対象外です。
- (4) 本邦滞在中及び乗継のための第三国滞在中の生活費等は、規定に応じて来日時に日本円で支給します。

※日をまたがない 6 時間以上の第三国滞在は対象外です。

<支給額>

- 1) 本邦滞在中 生活費：5,000 円/日（食事の現物支給がない日。）

【内訳】食費 1,100 円×3 食+雑費 1,700 円

※現物支給がある日は、その回数に応じて差し引いて支給されます。

- 2) 第三国滞在中 生活費：4,000 円/日（朝食費、昼食費及び夕食費として）

※航空会社が手配したホテルに宿泊する場合、食事が提供されることがあります。その際は生活費が支給されないことがあります。

- (4) 宿泊施設の利用料金
- (5) 海外旅行保険料（往路・研修期間・帰路に係る期間。）  
※原則として、居住国の国際空港を出発した時から帰国した日の国際空港到着時点までが保険対象期間です。但し、各国の国内移動区間は対象外です。  
本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。  
研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。  
但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。
- (6) 所外研修や研修旅行等に係る横浜での滞在先と訪問先の間の日復旅費
- (7) 研修先に対する研修経費

## 5. 応募書類

応募書類は以下のとおりです。

- ・作成の際は、2025年研修初日時点の情報を記入してください。
- ・JICA様式を使用してください。

### (1) JICA様式

#### 1) 身上書（引率者用）

（様式第5号）

- ・パソコン入力可。
- ・氏名（日本語）：

この書類に記載の氏名表記（漢字・ひらがな・カタカナ）にしたがって、短期滞在査証の申請書類を作成しますので、自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。**漢字・ひらがな・カタカナのどの文字を用いるかについても、注意してください。

- ・氏名（アルファベット）：

この書類に記載の氏名表記（アルファベット）にしたがって、航空券の予約の確認等を行います。自筆の場合は読みやすい字で、**渡航時に使用する旅券に記載の表記どおりに記入してください。**

※旅券をこれから申請する方は、**必ず旅券申請書に記入する氏名表記で記載**してください。旅券と航空券の氏名表記が異なると、渡航できなくなりますので注意してください。

- ・国籍：渡航に使用する旅券に記載されている国籍を記入してください。

※国によって短期滞在査証が免除となる場合があります。

詳細についてはJICA事務所からの指示に従ってください。

#### 2) 小論文（日本語または英語）

（様式第6号）

- ・パソコン入力可
- ・日本語の場合は、手書きも可。
- ・「日系継承語教育についての考え」について書いてください。

#### 3) 誓約書（引率者用）

（様式第7号）

#### 4) 病歴申告書

（様式第3号）

- ・パソコン入力可（署名は自筆）
- ・JICA様式による自己申告です。合格者は、病歴申告書の記載内容によっては、医師の診断書の提出が必要になる場合があります。
- ・提出前に未回答項目や記入漏れがないか、確認してください。
- ・既往症、服薬中の薬、アレルギー等の持病も、必ず申告してください。
- ・現在治療を受けている疾患があれば、応募時に研修参加に支障がない旨の主治医

の診断書も提出してください。

・研修期間中に既往症や持病が悪化した場合、国内医療機関受診時に発生する医療費は保険適用外（全額自己負担）となります。

・既往症や服用中の薬、アレルギーがない場合も、記載内容によって主治医の診断書を提出していただく場合があります。

※本邦到着後、保険証（メディカルカード）を配付します。

研修中の傷病については保険が適用され、原則診療費の支払は生じません。

但し、既往症や歯科治療は保険適用外です。

※記入事項に虚偽があると判明した場合には、研修に参加できなくなる可能性があります。

#### 5) 肖像権および個人情報使用承諾書 (様式第8号)

・本研修期間中、JICA が契約するカメラマン又は委託先が、広報用（各種報告書含む）として写真及び動画の撮影を行いますので、写真及び動画の使用目的等について確認のうえ、研修員及び親権者が署名してください。

#### (2) 写真2枚（データ可）

最近6ヶ月以内に撮影したもの。（縦4.5cm×横3.5cm、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名・国名を記入）

※1枚は身上書に貼付け、もう1枚はデータで他の応募書類とともに提出してください。

#### (3) 旅券の写し

5. (1) 2) 身上書に記載した、渡航時に使用する旅券の写しを提出してください。

##### ①既に旅券を所有している場合

査証や出入国記録が残されている全てのページを提出してください。

##### ②旅券を所有していない場合

JICA からの合否の通知を待つことなく直ちに旅券の取得手続きを開始してください。

※合否に関わらず、旅券取得経費については自己負担です。

#### 6. 応募書類の提出締切と提出方法

##### (1) 応募書類の提出締切

在外事務所の選考スケジュールに従い提出してください。

##### (2) 提出方法

各在外事務所の指定の方法で提出してください。

## 【注意事項（研修員・引率者・ご家族の方）】

### 1. 研修参加にあたって

- (1) 感染症や災害発生等により、研修プログラムの変更または来日が中止となることがあります。
- (2) フライトスケジュールは JICA 在外事務所が決定の上、合格者に連絡します。
- (3) 滞在延長や帰路変更は、研修員/引率者の自己負担であっても認められません。  
研修終了後は JICA が定めるスケジュールで帰国してください。
- (4) 原則として、往路・復路とも研修員が集合し、集団で渡航します。
- (5) 家族の同伴は認められません。

### 2. 渡航準備

#### (1) 旅券

旅券を所持していない研修員と引率者は、早急に申請手続きを開始してください。合格の連絡を受けてから旅券取得手続きを開始すると、査証取得が間に合わないおそれがあります。

※日本旅券を申請する場合には、戸籍謄本の取得等に時間を要します。

#### (2) 査証

- ・日本以外の旅券で渡航する場合

※査証は、日本の外務省で審査が行われた後、居住国の日本領事館に申請し、発給されます。国によっては短期滞在査証が免除される場合がありますので、JICA 事務所の指示に従ってください。

※身上書には、渡航時に使用する旅券に記載の国籍を記載してください。

#### (3) その他必要書類

- ・日本旅券で渡航する研修員・引率者については、居住国における身分証明書等、在住国に居住していることを示す書類等を、念のため持参してください。（原本の持参が難しい場合には写しを持参してください。）
- ・居住国や経由する国によって査証以外の書類（未成年者の渡航に対する親権者の承諾書等）が要求されることがあります。

帰国時、未成年の日本人が片道航空券で居住国に渡航するようにも見えるため、帰路の空港でのチェックイン時に航空会社から当該研修員・引率者が貴国に居住している（永住権・定住権等がある）ことを示す書類の提示を求められるケースがあります。

### 3. 滞在中

- ・ JICA 横浜宿泊棟が利用できない場合、周辺の宿泊施設に宿泊します。
- ・ JICA 横浜セミナールームが利用できない場合、研修プログラムは周辺施設で実施します。

以上

別紙1 研修員 応募書類様式

- ・ 身上書（様式第1号）
- ・ 親権者の誓約・同意書（様式第2号）
- ・ 作文（将来の計画）（様式第4号）

別紙2 引率者 応募書類様式

- ・ 身上書（様式第5号）
- ・ 小論文（日系継承語教育についての考え）（様式第6号）
- ・ 誓約書（様式第7号）

別紙3 研修員・引率者共通 応募書類様式

- ・ 病歴申告書（様式第3号）
- ・ 肖像権および個人情報使用承諾書（様式8号）